



来賓吟詠（其の一）関西吟詩総本部 理事の先生方



閉会のことば 中谷松苑 大会副会長



来賓吟詠（其の二）関西吟詩総本部 上層部の先生方

■ 祝賀会 ■



祝賀会の司会陣です☆（事業企画部）

オープニング
 一、開宴のことば
 乾杯
 一、閉宴のことば
 万歳三唱

副会長 熊田 雅賢
 副会長 酒井 翔志





しらさぎの祖
伊豆丸霧洲先生 略 歴

明治二十年八月十三日 福原田原郡生まれ 名は治郎平
大塚米の工場の社長 田原郡の私立学校教師として勤務
本学で学ぶと縁
大塚小倉運河へ志願入籍 少明に昇進 京都へ転居
その縁で京都府立第一中学校(今・高野学院)に在りて
開校の同好会創立と同時に入会 弟子西園庵に師事
藤原貞徳・岡田寅次郎を尊ぶ
昭和二十六年(六十四歳) 開校五十周年を以て「志を立派に」設立
大塚西園庵に「玉照文庫」設立
昭和二十八年(六十六歳) 開校五十周年を以て「志を立派に」設立
昭和三十一年一月(六十九歳) 本報副社長に就任
昭和三十三年(七十一歳) 開校五十周年を以て「志を立派に」設立
昭和三十三年二月(七十一歳) 大塚西園庵理事長に就任 愛媛 日新通
その縁で本学文化協会の役員に就任
昭和四十一年(七十九歳) 退任 享年八十
昭和四十八年十月二十二日 社団法人と改称されたのを期に
社団法人 開校五十周年記念 白鷺連合会と改称
平成二年四月 社団法人 開校五十周年記念 白鷺連合会と改称
平成二十四年一月 社団法人 開校五十周年記念 白鷺連合会と改称
現任に至る



伊豆丸霧洲先生 福原田原郡生まれ

※会員の皆様、お疲れさまでした。

そして、ご来賓の諸先生方、誠にありがとうございました<m(_)_m>

白鷺連合会は、この大会を契機に一致団結して、一段と大きく羽ばたく所存ですので、更なるご支援ご協力賜りますようお願い申し上げます。



『広島鷺夕会創立50周年記念吟詠大会並びに曾根会主を偲ぶ会』が開催されました☆

日時：令和4年10月23日（日）

開会 12時～16時

場所：ホテルグランヴィア広島

献杯のあと、曾根鷺夕会主と親交のあった宗範、宗帥（参与・相談役・元老）の先生方から生前の思い出話などがご披露された。その後は、各テーブルで会飲食、歓談に花が咲きました。

広島のお酒「賀茂鶴」をおいしくいただき、楽しい時間はあっという間に過ぎて閉宴となりました。

広島鷺夕会の皆様、ありがとうございました。



■ 会員吟詠 「鷺夕会50年のあゆみ」 以下画像抜粋



■ 献花台



■ 記念式典



■ 曾根会主を偲ぶ会



（レポーター：塩路澄誠）

シリーズ 教室探訪コーナー

天 田 澄 慈

令和4年12月10日（土）春鶯声栄会の一つ交野分会にお邪魔致しました。

春鶯声栄会は細田鵬声会長担当の本部分会はじめ成吟分会・香里分会・交野分会・春蘭分会です。上中鵬春先生が指導されておられるここ交野分会は京阪郡津駅近くの松塚会館は地域の交流場でグラウンドには大勢の方がグラウンドゴルフや卓球を楽しんでおられ、その一室で毎週土曜日9：30からです。上中先生の明るいお声で迎えて頂き始めました。

巻頭言唱和・発声練習が3方法、次に「外郎売り」の早口素読は一人ずつ、盛り沢山の発声準備運動の後は、樋野さん小林さん松岡さんの3名の女性が交代で先導指導。この日は松岡さんが当番です。課題詩は「謫居



之作」。読みから始まり、最終各自が8行を朗詠です。女性は全員8本。先生より飛ぶ声は「お腹に力入れて」「音を下げないで」と私の欠点を指導してもらったようで勉強になりました。律詩の後はそれぞれ好きな和歌の練習です。時間を惜しみ何度も指導されている上中先生に優しさを感じました。

練習の後は今年18日に開催される錬成会の構成吟を聞かせて頂きました。

ナレーションの声と吟が心地よく、取材を忘

れて聞き惚れてしまいました。あっという間の2時間でした。我に返ってびっくり今日の役目



を忘れて観客になってしまっていました早帰りされた樋野さんごめんなさい。樋野さん抜きで記念撮影パチリ。

定年後通った料理学校で講師だった上中先生に誘われ入会された高橋さんも近藤さんに声かけ入会してくれて早12年になりますと笑顔で話され楽しんでおられる様子が春鶯声栄会の元氣と思えました。高橋さんと近藤さん男性二人も元同僚。

錬成会に忘年会そして来年の新年会も楽しみと話され、会員全員が楽しめる企画が続いているようでした。

木々があふれる素敵な住宅街の中、地域のコミュニティセンター松塚会館。

近くには丸山古墳塚もあり、春の桜見物にウォーキングと少し散策したくなりました。

これからも仲間が増えそうな予感のする楽しい教室探訪でした。ありがとうございました。

史跡探訪の旅



「二十六年…夢の如く…」 競吟でよく耳にした強い吟。

「獄中作」で知られる橋本左内の地元福井を訪ねました。(その三 四句詩 A-90 P19)

26年の人生だった橋本左内の計り知れない悔しさを今回垣間見たような旅でした。

本場で開催されている詩游クラブの吟行会に同行できたことが気づきになりました。

180年前の天保5年に福井藩医の長男として生まれ、優秀で子供の頃から慌てず騒がず、じっと他人の話の聞き、12才で漢方医学を学び、15才で「啓発録」として自分を奮い立たせる言葉を書いた。

16才で大阪の緒方洪庵にオランダ医学を学び、なんと19才で父親の代わりに藩医になる為福井に帰郷。その後21才で江戸に行き、西洋学問を学んだ事から世の中の動向に目覚め、亡くなる26才までがまた波瀾万丈な生涯でした。

現在では中学三年生の15才で著した「啓発録」とは

- 1 稚心を去る…子供心の楽しい思いは捨てる
- 2 気を振う……緊張を緩めることなくとにかく努力する
- 3 志を立つ……自分が決めた決心を見失わない
- 4 学を勉める…強い意志を保ち努力する
- 5 交友を択ぶ…切磋琢磨出来る良き友人を選ぶこと

22才で福井藩主に仕え要職にも就き、23才には松平春嶽設立の「明道館」の教師にもなりました。

24才で春嶽の相談役として、江戸に行った。25才には春嶽の命令で京都に赴いた。秀才故に平凡な時がなかったようで可哀想。最後は安政の大獄の犠牲で囚われの身になり、身につけた才能や知識を発揮すること出来ず、斬首され残念な最後でした。

左内が牢に入れられていた僅か5日間の間に篤い思いを三首に込め、そのうちの二首目が誰もが知る「獄中作」でした。言い尽くせない思いを漢詩に託されたのです。

人の何倍も努力されもっと活躍したかった橋本左内 これからも失せることはない篤い思いを地元で感じました。

お墓は左内公園の左手にご両親と並んで建立されていました。中程には先の世が見たかったと謂わんばかりに、高い高い台座の上に左内像。



<橋本左内像>



<凜々しい左内公>

獄中作 其の一
 苦冤難洗恨難禁
 俯則悲傷仰則吟
 昨夜城中霜始隕
 誰知松柏後凋心

獄中作 其の三
 欹枕愁人愁夜永
 陰風刺骨折三更
 天祥大節嘗心折
 一点星華照牖明

広報部 天田澄慈

館内の入口にも素敵な26才の左内像、地元足羽公民館では郷土の偉人 橋本左内先生の五つの言葉「啓発録」を石碑に刻み、大切にされていました。

橋本左内公の悔しくも儂い26年は走馬灯のように駆け抜けて、今も尚名を残されている偉業に心打たれました。



<啓発録…自分が元気になる言霊>

白さぎ青年部第55回吟詠大会が開催されました☆

去る令和4年12月18日、実に3年ぶりとなる白鷺連合会青年部吟詠大会を開催することができました。



過去2年間も例年どおり会場は確保し、大会開催に向け毎月1回青年部会合は行っていましたがコロナ禍の影響もあり、2年続けて中止という選択をせざるを得ませんでした。今年は何とか大会開催を！と取り組んできましたがコロナ禍の状況が解消されたわけでもなく、正直一抹の不安はよぎりました。

それもあり、午前中から大会を開始し夕方に終了後、懇親会を行うという従来の青年部大会と同様の取り組みはせず、昼から夕方までのコンパクトな大会を開催するということで進めてきました。

今年の青年部大会には15名の青年部員が参加しました。少し前までは近畿圏以外からの青年部員が参加することもありました。

ただ近年の状況下では都市圏に出向くというこ

とはいろいろな制約もあるため、参加は控える傾向にありました。

ですが今回は浜松の地より浜松鷺長会から水野庫龍青壮年部長と飯田報鷺浜松鷺長会副会長がお越しいただきました。また、水野青壮年部長には大会の各所にて表舞台だけでなく裏方でも大会運営に携わっていただき感謝いたします。



各会から一般会員の皆様に於かれましては本年度大会に際し、多数お越しいただきありがとうございました。毎年、一般会員の方々も楽しめるようなプログラムをと頭を捻っているのですが、なかなか良い案が浮かばず、来年こそはひとつ新しい取り組みも加えてみようと考えています。また、大会にお越しいただいた会員の方々には青年部員が少ないということもあり、毎年いろいろと大会のお手伝いいただき誠に感謝いたします。

白鷺連合会の先生方に於かれましては年末のお忙しい時期にも関わりませず、多数お越しいただき、またお心遣いいただきありがとうございました。

青年部大会恒例の「飛び入り吟詠」にてアドバイスいただいた中谷湊苑先生、大取鷺照会長に於かれましては例年以上に熱の籠ったご対応いただき誠にありがとうございました。



久々に青年部大会を開催したということで改めて青年部としての団結力、人を思いやる心というものを強く認識すると共に、白鷺連合会の諸先生方、各会会員の皆様の温かいお心遣いを強く感じ取ることができました。青年部一同、皆様方に心より御礼申し上げます。



また令和5年度も青年部大会は必ず開催いたします。近年冬場での開催となりましたが、本年は気候の良い秋口でと考えております。その際は皆様、是非とも大会に足を運んでいただきますよう青年部一同心よりお待ちしております。



青年部長 中岡蒼狼声

友好青年部ご来賓の先生方

